



沢田内科医院

ニュースレター

第 47 号

金曜日午後が休診になって変わったこと

4 月に金曜日の午後を休診にして 5 ヶ月が過ぎました。時間的な余裕ができるかと期待したのですが、思い通りの時間の使い方はできていません。私の健康を心配してくれる患者さんがたくさんいますが、以前に比べて心身ともに余裕ができたことは確かです。

金曜日の午後が休みになった分、午前中の忙しさが増えました。午前中に受付した患者さんの診察が終わるのが、1 時を過ぎることが普通になり、時には 2 時を過ぎることもあります。その分、患者さんの待ち時間は長くなりました。職員も、午前中の勤務なのですが、実際に帰るのは 2 時から 3 時です。

がん検診などでチェックされた人が多くなり、胃内視鏡検査の数が年々増えています。検査件数が増えていることが、外来患者さんの診察時間に影響し、待ち時間が長くなっている原因のひとつです。診察と胃内視鏡検査は、私自身が動かなければ進みませんので、どうしてもありません。朝に診察が始まると、昼休みを除いて、体を動かさなければなりません。コーヒーを飲むのも診察しながらです。

パソコンの前に座っている時間が長いので、フィットネスクラブで体を動かす時間を長くしようと思っているのですが、これは実行できていません。

さやかさんが結婚しました

9 月 6 日、澤田さやかさんの結婚披露パーティが開かれました。さやかさんは、中泊町出身、3 月まで神奈川県平塚市民病院で働いていました。この 4 月から沢田内科医院で事務の仕事をしています。事務室の奥の方で、主にカルテ処理をしていますので、顔を見たい人は覗いてみて下さい。

大学時代に軽音楽をきっかけに知り合った二人ですので、遠くから友だちがたくさん集まり、最初から最後まで

診療時間を短縮しましたが、幸いにも通院してくれる患者さんの実人数はこれまでと同じです。診療報酬が低くなっていますので、医院の経営は年々厳しくなっていますが、20 人の職員とともに頑張っています。

で二人のリサイタルの様相を呈していました。結婚披露宴では恒例の、出席者による余興は全くなく、すべて二人による自作自演のパーティでした。世の中も変わったものです。

なお、新郎は私の長男です。



後期高齢者(75 歳以上)で通院している人は 健診を受けられなくなりました

今年の 4 月から、健診制度が大きく変わりました。弘前市民にとって大きく変わった点は、企業に勤めている人と、その家族の健診です。これまでの健診は、弘前市が実施していましたが、4 月からは、健康保険組合が健診を行うことになりました。つまり、どの健康保険に加入しているかで受けられる健診に違いが出てきました。その要点を 4 つの場合に分けて解説します。

■弘前市国民健康保険(国保)に加入している人(40 歳以上、75 歳未満)

これまでの基本健診と大きな違いがありません。弘前市では、弘前市医師会の意見を全面的に取り入れてくれたため、むしろ、これまでよりも充実した健診内容になりました。希望者は、弘前市医師会健診センターか各医療機関に問い合わせして下さい。

■健康保険組合に加入している本人(40 歳以上、75 歳未満)

勤めている人を対象に、いわゆる事業主健診が行われます。これまでは、健診を受けることができない場合は、弘前市の基本健診を受けることができたが、4 月からは受けることができませんでした。また、健診内容も、弘前市国保の健診に比べると項目が貧弱な場合が少なくありません。大きな企業になると、人間ドックを受けることができるなど、健康保険組合によって違いがあります。自分の健診がどうなっているのか不明な場合は、勤務先に問い合わせして下さい。

■健康保険組合に加入している人の家族(40 歳以上、75 歳未満)

昨年度までは弘前市の基本健診を受けていましたが、4 月からは受けられなくなりました。家族が加入している健康保険組合から、「受診券」が送られてきます。ただし、「受診券」の発行を申請しなければ、送られてこない場合があります。「受診券」があると、市内の医療機関でも健診を受けることができます。ただし、この内容も、弘前市国保の健診に比べると貧弱な場合が多いです。

■後期高齢者(75 歳以上)

この年代の人たちは、これまでは弘前市の基本健診を受けることができたが、4 月からはできなくなりました。医療機関に通院していない人は、後期高齢者の健診を受けることができます。しかし、多くの人が医療機関に通院していますので、現実には健診を受けることができませんでした。でも、心配は要りません。通院している人が、その病気のために定期的に検査していれば、後期高齢者健診を受ける意味はほとんどありません。つまり、75 歳以上で通院している人は、健診を受けられなくても、実際は不便を感じることは、ほとんどありません。

今年の 4 月からの健診は、糖尿病などの生活習慣病を持つ人を早く見つけ出すことに目的が変わりました。弘前市民にとっては、健診を受けることが不便になり、場合によっては、健診を受けることができなくなり、さらに、その内容も、これまでよりも貧弱になりました。そして、この健診のシステムを整備するために、膨大な時間と費用を必要としました。その上、その効果には疑問が持たれています。始まってしまったことですから、やらざるを得ませんが、介護保険との整合性がとれていなかったり、前途多難な健診が始まったものです。

ここで述べたことは、健診の大まかな説明でしかありません。詳しくは、自分の職場、加入する健康保険組合、弘前市国保年金課、などに問い合わせして下さい。なお、がん検診はこれまでと変わりありません。がん検診の方が、一般の健診よりも大切です。



敬意を払うということ

教師や医師など、「先生」と呼ばれる人々の権威失墜ははなはだしい。学級崩壊や医療事故が多発すれば、それも当然のことでしょうが、原因は何なのだろうか。教師としての働きを十分に果たしていないからなのでしょう。医師に求められる当然のことをしないために医療事故を起こしていると思われているからなのでしょう。

教育も医療も、本来、ある種の権威が存在する現場です。つまり、教える立場と学ぶ立場、医療を与える立場と受ける立場、そこには、専門性を背景とした上下関係があって当然の現場です。しかし、現代社会では、このような上下関係は非民主的ということで、極力否定されてきています。「友だちのような」教師がもてはやされ、医師の「パターナリズム（父親の保護的な姿勢）」は非難されてきました。私は、教師や医師の「専門性としての権威」が否定されてきたことが、学級崩壊や医療崩壊のひとつの原因ではないかと考えています。

真夜中に当直して救急現場で頑張っている内科医に対して、子どもを連れてきた親が、「小児科の先生に診てもらえないですか？」とか、打撲で受診した患者さんが、当直の外科医に、「整形外科の先生に診てもらえないのですか？」と要求することがあります。自分の専門ではない場合、真夜中の当直の現場では、すぐに専門医を呼ぶか、翌朝まで自分が責任をもって診療を行うか判断に迫られます。とりあえず診療を行う夜間救急の現場で、「小児科医に診てもらえないのですか？」と言われるとがっかりします。深夜の救急の現場で、自分ができる限りのことをしているのに、このように言われると信頼されていないという気持ちになり、「やる気」をなくしてしまうのです。

最近の教師は、学校での学習以前の、本来、家庭でなされるべき生活指導に多大の時間や労力を費やしたり、保護者からの理不尽な、一方的な要求が多いとも聞きます。これも、保護者の権利意識が強くなり、教師の専門性が軽視されている一つの証拠だと思えます。将来、子どもたちが一人前の大人として生きて行けるように、勉強や集団生活の指導をしている教師に対して、敬意と尊敬の念を失うことは、結果として、自分たちの首を絞めていることだということを認識しなければならないと思います。

教師や医師に対して、尊敬しなければならないと言っているわけではありません。学校や病院の場合だけではなく、人に何か仕事を依頼した場合、それを引き受けてくれる人に対しては、それ相応の感謝の気持ちを持ち、敬意を払うべきではないかということです。権利意識が強くなり、「仕事に対して報酬を払うのだから、それに対して注文をつけるのは当然だろう」、という態度をとるのは間違いだろうと考えています。お互いに敬意を払うことで、感謝する気持ちや信頼感が生まれ、いい仕事に結びつくのではないのでしょうか。

私は、社会の治安を守ってくれる警察官に対して、このような状況になることを心配しています。ヨーロッパの国々では、警察に対する信頼が低下していると聞きます。日本では、警察官に対しては、まだ特別な感情を持って接していると思います。これが、教師や医師と同じようになったら、日本の社会はどうなっていくのだろうかと心細くなります。

人は、それぞれ社会で役割を担っています。お互いにそれぞれの職業に対して敬意を払うということが、住みよい社会を作る基本のような気がします。

医院でのこぼれ話 『ついに、やせ薬が完成か?』

医院の事務の仕事をしている私の妹は、食事制限することでメタボ体型を少し修正した。複数の筋から、「最近やせた」という情報が耳に入ってくるので本当のようだ。外来で、「やせる薬が欲しいんですが。」とよく言われるので、「やせる薬ができれば、事務の人に 1 番先にやります。薬があるかどうか、見れば分かるでしょう。」といったも答えています。

カロリーを少なくして体重を落とすように指導しているメタボ体型の山田さん(仮名)も、やせ薬が欲しいと言っていた一人でした。



その山田さんが、診療中に、

山田さん：「先生、とうとう、やせ薬が完成したんですね。」

私：「どうして?」

山田さん：「事務の女の人がやせましたねえ。」

私：「あれは、食事制限してやせたんで、やせ薬を飲んだんではない。」

山田さん：「そうなんですか……。カロリーを少なくするしかないんですか……。やせ薬を飲んだのかと……。」

私：「地道にやるしかないんです。」

山田さん：「先生、やせ薬が完成したら、ひとつ、頼みますよ。」

と言いながら、診察室から出て行きました。どこまでも、薬に頼ろうとする山田さんでした。

